Na-3 勿来の関桜まつり

開催時期 3月下旬～5月上旬

会　場 勿来の関公園

８世紀から９世紀まで、常陸国境の関として機能した菊多関（場所は明確でない）は、江戸時代、内藤家が所領した磐城平藩の飛び地であった関田村地内の風光明媚な地にサクラを植樹して修景するとともに、「来る勿れ」という一般用語が固有の関名である「勿来関」に名称を変えて以降、文学の世界へシフトして歴史の舞台に登場するようになりました。

地元俳人が建立する源義家が詠んだ「吹く風を　勿来の関と思へとも　道もせにち（散）る　山桜かな」の碑を建立した江戸時代末期からは、関とサクラの組み合わせは、後年における勿来関（この場合「の」は入らない）のイメージを決定づけるようになりました。

さらに、明治時代には地区民がサクラを植樹。さらに、大正１４年（1925）４月には、桜の植樹を記念して田中智學氏により「勿来桜植記念碑」の板碑が建てられました。

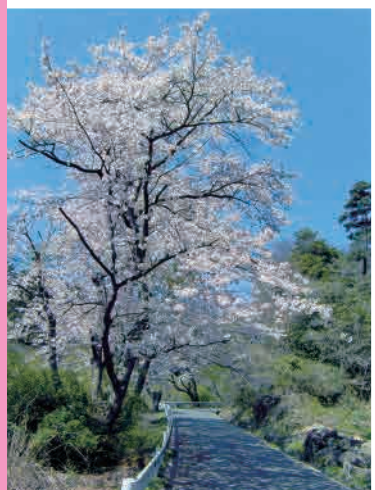
昭和２６年（1951）３月、「勿来の関公園」、菊多浦などが「勿来県立自然公園」に指定されると、官民を挙げた名所づくりが着手。断続的にソメイヨシノが植樹されました。

起伏に富んだ勿来の関公園では、毎年３月下旬から４月上旬にかけて、サクラがマツとのコントラストや太平洋の青さと相まって、美しい景観を見せてくれます。

会　場

福島県いわき市勿来町関田長沢地内

お問合せ

勿来駅前青年会

TEL：090 - 2364 - 3775